

07 リスクコミュニケーション

食品安全委員会は、食品健康影響評価の結果や食品安全に関する基礎的な知識について、報道関係者、食品関係事業者、研究者、行政担当者、消費者等の様々な立場の方と意見・情報を交換しています。

食品添加物や食中毒などに加え、有機フッ素化合物（以下「PFAS」という。）や農薬の再評価など社会的関心の高いテーマについても、対面またはオンライン形式で積極的に意見交換・情報提供を実施しました。

◆意見交換会

【報道関係者向け】

食品安全委員会は、科学的知見に基づく食品の安全に関する情報が幅広く国民に届くよう、報道関係者の方々との意見交換を重視しています。

2024年度は、社会的関心を踏まえ、PFAS、農薬の再評価、アニサキスの3テーマを対象として、対面またはオンラインで開催しました。評価やリスクプロファイルの目的と意義、方法論やプロセスの透明性、評価の結果の意味、今後の課題なども含めて、活発に意見交換しました。

【消費者をはじめとする一般向け】

食品安全委員会は、広く国民に対して意見交換の機会を作るべく、どなたでも参加できる一般向けの意見交換会にも力を入れています。

2024年度は、アニサキスをテーマとして、情報の拡散性・参加者の利便性を考慮するとともに、幅広く質問にお答えできるよう、オンラインで開催しました。全国から約300名の方々に参加していただきました。質疑応答では、事前に募集し寄せられた多数の質問に加えて、当日の質問も含め、多岐にわたる皆様からの声に回答しました。

開催実績

○PFOS、PFOAの食品健康影響評価書(案)

報道関係者向け：6月

○アニサキスのリスクプロファイル

報道関係者向け：1月

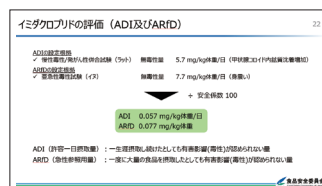
一般向け：2月

○PFOS、PFOAの水道水及びミネラルウォーター類の基準値設定に係る議論の概要

報道関係者向け：2月

○農薬の再評価(イミダクロプリド)

報道関係者向け：3月



対面及びオンラインでの報道関係者向け意見交換会の様子

◆講師派遣

食品安全に関して、地方公共団体と共催で意見交換会等を実施しています。また、地方公共団体、大学、消費者団体、関係職能団体、事業者団体等が主催する意見交換会やセミナー等に講師を派遣しています。

2024年度は、埼玉県、岩手県、沖縄県、京都府と共催して、給食施設職員、消費者、事業者、行政関係者、高校生または大学生等を対象に情報提供やグループワークを交えた研修を行いました。また、各団体の要望に応じて、「いわゆる健康食品」、「微生物・ウイルス(食中毒)」、「残留農薬」といったハザードごとのテーマに加え、食品安全委員会や食品健康影響評価の概要などの食品安全委員会の役割についても情報提供し意見交換しました。さらに、日本農薬学会や日本動物代替法学会に講師を派遣したほか、関連学会でブース展示を行いました。



グループワークの様子